



IDFプレスリリース

2018年7月3日、ブリュッセル発

OECDが乳脂肪消費の増大を予想

OECD expects dairy fat consumption to increase

消費者の嗜好は、乳脂肪の科学とそのヘルシーな食事への効果に影響を受けていると本日発表されたOECD-FAO農業概観2018-2027に謳われた。

この報告書を歓迎したキャロライン・エモンドIDF事務総長は、OECD-FAO農業概観2018-2027は有益な市場データと市場分析を提供していると語った。この報告書はIDFが毎年発行する「世界の酪農状況報告書」を補完する。

同氏は報告書の記述にあるこの点を指摘した。「先進国における乳の需要は、ここ数年間バターと乳脂肪に向かい、植物性油脂ベースの代替品から離れています。この傾向は、乳脂肪の健康に与える評価がこれまで以上に肯定された点と（消費者の）嗜好変化に求めることができます。」

OECD-FAO報告書は、「乳脂肪の需要に対する構造的な変化により」バターの価格が相変わらず高止まりするであろうと述べた。バターに対するグローバルな需要は毎年2.2%近く成長すると予想した。

この合同発行文書は、「先進国の消費者は、他の油脂類からバターに嗜好を移して2027年にはバターを0.3kg多く消費すると予想する。最近の研究によると、乳脂肪の摂取が与える健康的な効果に今までよりも前向きな光が当てられている。消費者はバターへの嗜好を高めたが、加工食品は落とした。製パン向けと料理のニーズも刺激している。」と予想した。

この動向は心強いとエモンド氏は述べた。最新の科学研究によれば、健康的にバランス

のとれた食事パターンの一部に牛乳、ヨーグルトおよびチーズのような乳製品を利用することが健康のサポートになる。

世界的にみると多くの一般食品の1人当たり消費量には変化がない。その一方、OECD/FAOプロジェクトは、乳製品の消費は稀な一例であり、次の10年間の人口増よりも早い成長が期待できると指摘した。

IDFとしては、飼料、ユーティリティおよび農場管理に伴う高い費用をみたときに、生乳価格の低下が生産者の収入に及ぼす影響をOECDとFAOが注視するように促した。

食糧保障における貿易に果たすOECD-FAOの役割をIDFは認める。IDFは、スタンダード（規格）のハーモニゼーションを通じて安全な食品の貿易が円滑に進むようにコーデックス食品規格委員会とISOと共同する。

このOECD-FAO報告書は、乳生産と乳需要の伸びの多くは、（インドとパキスタンが最大を占める）アジアにある点を認めている。韓国のテジョンで10月15-19日に開催予定のワールドデーリーサミットでは、アジアにおける生乳生産と乳および乳製品の消費増大を扱う予定である。サミットには韓国、日本、中国およびインドはじめ世界各国から多数の参加者が見込まれる。

完

翻訳：JIDF事務局

編者注：仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。